

福山駅周辺では、様々な出来事が起きており、取組が動き出している中、少しずつ変化が起きて始めています。今回のデザイン会議は、「2021年度取組報告及び次年度に向けて～福山駅周辺で起こっている出来事と将来～」を議題として、これまでの駅周辺の変化を振り返りながら、次年度以降に向けて取り組むべきことについて議論を行いました。



1 官民連携

- 官民連携の取組にこだわるべき。事業の計画・設計段階から市民ワークショップの開催等で市民の意見をしっかりと聞きとり、反映していくと良い。市民が事業の完成を楽しみと思えるような進め方ができると良い。
- 事業間の連携が出来ていないと感じる。連携することで、どのような波及効果が生まれるかを考えながら取り組むと良い。
- 官と民が役割をはっきりと認識して取り組むことが大事。

2 福山駅前広場

- 駅前大通りの一部を広場空間として活用する案は良い。
- 駅前広場と面する伏見町、三之丸町が今後どのように連携していくかが重要。隣接する各施設がどうやって広場と連携するのか、どうやって民地に広場機能を取り込んでいくのか等、市民を含めた話し合いの場を開催し、方向性を議論すると良い。
- 市域全体や備後圏域の発展、シビックプライドを醸成するうえで、郊外の家族層や若い人の意見は重要である。特に若い人はSNSで発信する等、情報発信をして魅力を伝えてくれる。

- 今後は駅前広場が「福山の顔」「福山の玄関口」になるということが大命題として議論することが大事。

3 ウォーカブルなまちづくり

- 道路や駐車場、歩行者空間等の交通計画を検討すると良い。
- ウォーカブルエリア内や郊外をつなぐ交通手段が今後大事となってくるため、インフラとしての公共交通の維持運営をどうしていくかが大きな課題。
- 先進地では大きな公共投資が行われている。ただ公共投資をすればよいというのではなく、ハードとソフトの両方をうまく動かしていくことが大事。福山市の場合は、まだ大きな公共投資は行われておらず、これから駅前広場が動き始めると、市民に大きなインパクトを与え、多くの人に関わってくるというダイナミズムが生まれてくる。そこをうまくコントロールしていくことが大事。

3 ウォークアブルなまちづくり（続き）

- 駅北口では、福山城築城400周年に向けて景観整備を進めているが、福山城を意識したエリアは、駅北側だけでよいのか、南側はどうするのか等、ウォークアブルエリア内のデザインコードを検討すると良い。
- これからはWi-Fiを自由に使える環境整備が必要になってくる。駅の一定範囲でフリーWi-Fi整備を行い、ベンチやテーブルを設置することで、駅周辺でも仕事ができるような空間があれば良い。
- 居心地がよい空間とはどのような空間であり、誰がどうやってつくっていくのかを、市民を含めて議論すると良い。
- バリアフリーやジェンダーフリー、天候による視点も必要。多様な視点を取り入れることで世界レベルで通用するユニバーサルな都市という見え方となる。
- 駅周辺のキャッチコピーがあれば良い。ウォークアブルという言葉は全国各地で言われており、市民の皆さんが納得してわくわくするようなキャッチコピーが必要になってくる。プロジェクトの名前が市民の共感を得て、一つのメッセージとなり、キャッチコピーになることもある。
- こだわりを打ち出していくと良い。よい事業はたくさんあるが、こだわりがないと感じる。
- 人を惹きつける魅力的なコンテンツが必要。チャレンジがしやすい環境をどう整備していくかを検討すると良い。
- 福山市はすごいスピード感で形になってきていると思う。これからは自然発生的に良いものもあれば、悪いものも生まれてきてしまう状況となる。そこをどうやってコントロールしていくかを検討すると良い。

- 様々な事業が順調に進み始めているが、事業をすることが目的化していないか不安。各事業は、あくまでよりよいまちにするための手段の一つであることを意識することが必要。

4 デザイン計画

- 計画を実現する手法を検討すると良い。これからたくさんの市民意見が出てくるが、全てがウォークアブルを実現するものではない。その時に市民意見をどう反映させ、ウォークアブルを実現させていくかを検討しておくが良い。
- コロナの影響で飲食を中心にまちなかが疲弊している。ナイトエコノミーの観点を盛り込めると良い。
- 様々な事業が動き始めており、もう少し見えてきたものがあると思う。どんな人が潜在的に存在しており、どういう声があるのか、課題は何なのかを反映できると良い。
- 成果指標をシャープにできると良い。各事業だけの成果指標になっており、全体が分からなくなっている。全てに付随する成果指標を設定すると良い。また、行政データを積極的に公開していき、今後の課題検討に使用できると良い。
- 現在のデザイン計画は最後が締まっていない。さまざまな事業が動き始めて、全体の目標がわからない状態になっている。最後にまとめのようものを掲載すると良い。